

絵画と金箔【洋画編】

色材としての金箔

日本では古くから仏像や建築に金箔が使われ、屏風や襖絵、工芸品など、幅広く利用されてきました。西洋でも建築や祭壇の装飾、額縁、中世のイコン（聖像画）、15世紀ごろまでの宗教画の背景に多く使われています。洋の東西を問わず、古より、金箔は美術に欠かせない色材でした。今回と次回の二度に分け、絵画に金箔を貼り付ける技法を紹介します。今回は洋画編です。

金地テンペラ画への箔貼り

西洋絵画でもっとも古く、高貴とされる方法が「光沢金箔処方」です。テンペラ画に用いられたもので、技術と手間をかければ最高の光沢が得られる箔貼り法です。手順は次の通りです。基底材には、現在ではシナヘニヤ板を使います。

- (1) 膠液（兔皮膠1・水10）にポロニーヤ石膏を加え、パネルに10回程度塗り重ねます。塗り重ねは半乾きの状態で行います。
 - (2) 乾燥後、鋼鉄製パネルなどで、表面が平滑になるまで削ります。
 - (3) 金箔を貼る面に、赤色とのこ（赤ポロ）を膠液で練ったもの（下地制作に使った膠液を倍に薄め、水練り赤ポロ）に対して膠液4〜5の割合で混ぜる）を、3〜4回重ね塗りします。
 - (4) 乾燥したら、箔を置く部分に柔らかい筆で水置きし、箔刷毛を使って箔を一気に置きます。さらにその上に箔刷毛を軽く当てて、箔を定着させます。
 - (5) 2時間ぐらい（季節により異なる）乾かした後、メノール棒で表面を磨き光沢を出します。
- 作業の際には水分や脂分で箔が付着しやすいので、手や道具類にはペーパーパウダーなどをまぶしておくとうまいでしょう。金箔、箔盤（金箔を切る台）、箔ナイフ（金箔を切るナイフ）、箔刷毛（金箔を定着させるためのブラシ）、メノール棒（磨くための棒）などは市販されているので、画材店にお問い合わせください。

油彩画への金箔接着

キャンバスの油彩画面にも、金箔は使用できます。以下はホルベインの「ジャパン ゴールド サイズ」（コーパル樹脂系）を使った「油金箔処方」です。光沢金箔処方のようにメノール棒をかけることはできないので、つや消し表面になりますが、誰でも手軽にできる箔貼り法です。

- (1) よく乾いた画面の上に、ジャパン ゴールド サイズをターペンタインで約3倍に薄めて塗ります。
 - (2) 数分〜数十分後、表面が乾ききる寸前、指で触れて表面が粘着テープのような状態になったときに金箔をのせます。
 - (3) 表面を脱脂綿などでしっかり押さえつけて定着させます。
- あまり濡れていても、乾いてしまっても、金箔はうまく貼れないので、あらかじめテストしておくとうまいでしょう。樹脂ワニス系の画用液なら接着剤として使用できますが、ジャパン ゴールド サイズは金箔接着専用が開発された製品です。接着剤として優れているばかりか、接着に適した半乾燥の状態が持続するので使いやすいでしょう。また、イコンのマリア像や聖職者の衣服の刺繍などにも、ジャパン ゴールド サイズを使いた油金箔処方でも金箔を線状に施すことができます。方法は(1)画面をよく乾かす、(2)ジャパン ゴールド サイズにシルバー ホワイトの顔料を混ぜ、盛り上がったラインを描く、(3)金箔を置く、(4)化粧用などの柔らかいブラシで余分な金箔を除去する一歩です。ジャパン ゴールド サイズは、こうした工芸的で繊細な技法にもよく使われています。



※参考資料：「絵画技術体系」マックス・デルナー著 ハンス・G・ミュラー改訂 佐藤一郎訳 1980 美術出版社 他



ホルベイン絵具

ホルベイン絵具に関する
ご質問・ご相談は…

ホルベイン絵具 技術サービスセンター TEL.0729 (85) 1223
〒579-8063 東大阪市横小路町4-10-52
電話受付時間/9:00~16:00 月~金曜日(祝日を除く)

ホルベイン工業株式会社 東京都豊島区東池袋2-18-4 TEL.03 (3983) 9251 大阪府東大阪市上小阪1-3-20 TEL.06 (6723) 1554

www.holbein-works.co.jp